

## ALCE 第94回例会

「日本語学習者の日本語学習フロー経験」

—韓国人就労者の事例から—

九州大学大学院 地球社会統合科学府 朴ウギョン

# なぜフロー(Flow)に注目したのか。

## 私の日本語学習経験

やりたい ➡ 難しい ➡ 集中・チャレンジ ➡ 楽しい

文字がかわいい

暗記

翻訳アルバイト

知識が増える

音が綺麗

1級取得も話せない

通訳アルバイト

楽しめるものが増える

フローは、技能レベルと挑戦レベルが高い水準でつりあうときに感じる楽しい心理状態

## 技能レベル(日本語能力) と 挑戦レベル(日本語の壁)

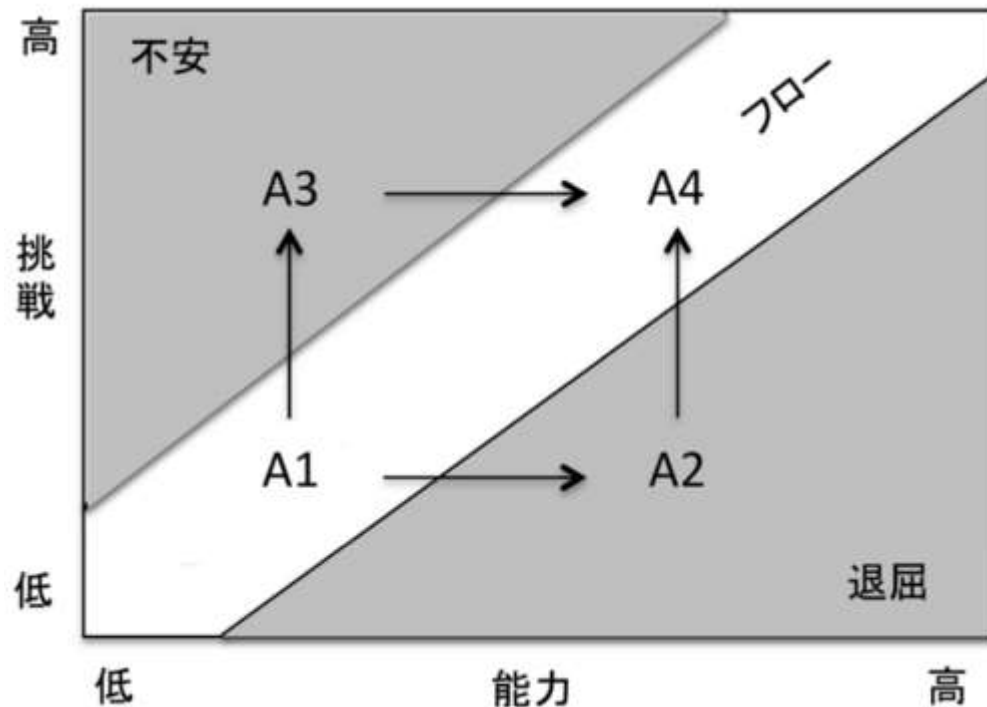


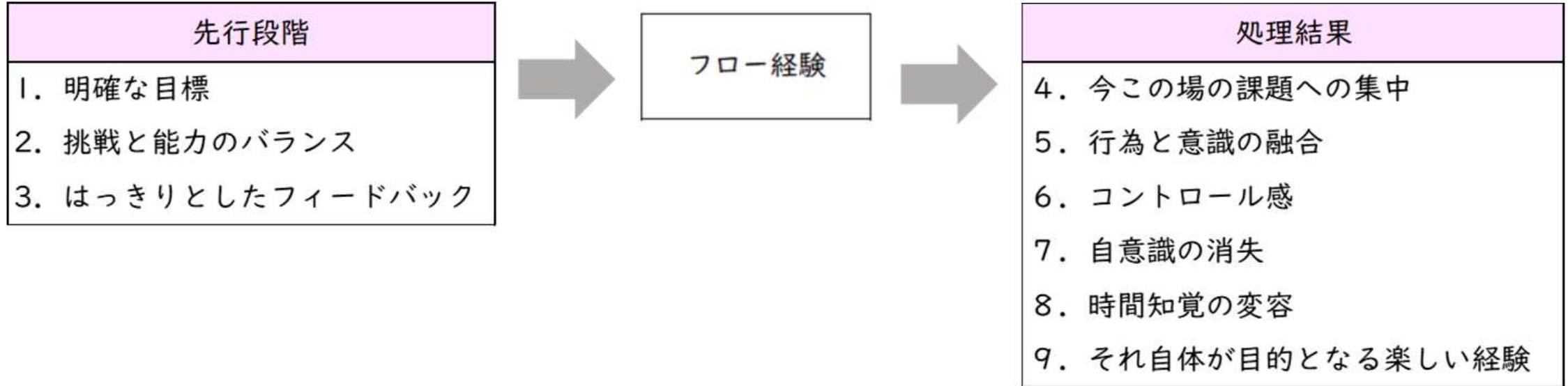
図 フローの発達モデル  
Csikszentmihalyi, M. (1990/2004) P.144

日本語学習において、  
挑戦しながら、  
能力を伸ばしてきた成長のプロセス。  
その中でどのような経験をしたか。

フローだったのかどうか  
ではなく。

## 【フロー経験の特徴】

Nakamura, J., & Csikszentmihalyi, M. (2002) The concept of flow. *Handbook of positive psychology*, p.90  
Csikszentmihalyi, M., Latter, P., & Weinkauff Duranso, C. (2017) Nine Components of Flow. *Running flow*, p.18



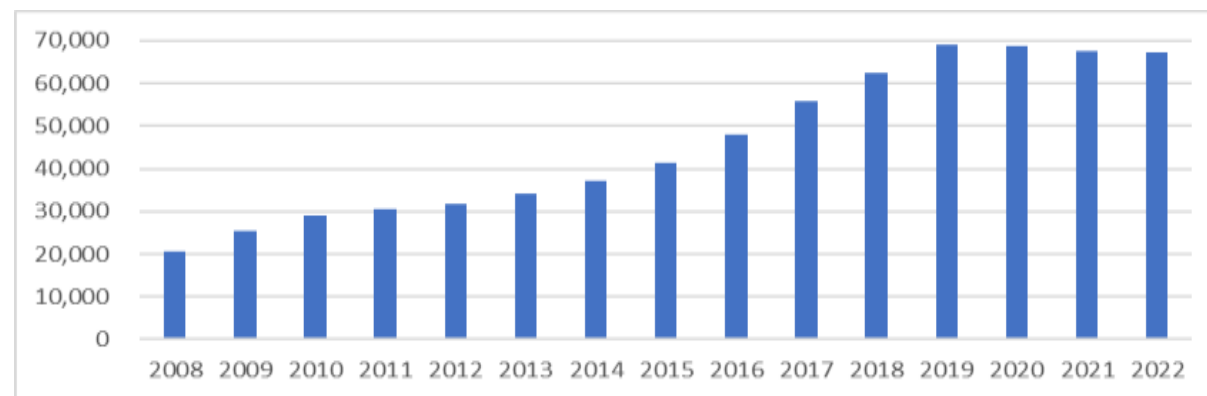
日本語学習の経験の中で見つける

## なぜ、韓国人就労者か。その1

### 外国人雇用状況の内、韓国人の推移 厚生労働省「外国人雇用統計」

■ 2008年度統計開始から最近の2022年度まで3倍以上に増加

(20,661名から67,335名へ)



■ 脱単純労働、専門化

[別表1] 国籍別・在留資格別外国人労働者数

	全在留資格計	①専門的・技術的分野の在留資格(注2)計		③技能実習
			うち技術・人文知識・国際業務	
全国籍計	1,822,725	479,949 (26.3%)	318,850 (17.5%)	343,254 (18.8%)
韓国	67,335 [3.7%]	28,852 (42.8%)	25,267 (37.5%)	16 (0.0%)

## なぜ、韓国人就労者か。その2

### 在日韓国人の在留資格 法務省「在留外国人統計」(2022.12.)から作成

#### ■ 滞在の長期化 (ニューカマーの半数が永住者)

国籍・地域	総数 (A)	特別永住者 (B)	(C) = (A)-(B)	永住者	技術 ・人文知識 ・国際業務	留学	日本人の 配偶者
総数	3,075,213	288,980		863,936	311,961	300,638	118,656
韓国	411,312	260,605	150,707	74,805	23,083	14,124	11,636
			(C)対比	49.6%	15.3%	9.4%	7.7%

#### ▲ 永住許可に関するガイドライン (令和5年4月21日改定) 法務省

[https://www.moj.go.jp/isa/publications/materials/nyukan\\_nyukan50.html](https://www.moj.go.jp/isa/publications/materials/nyukan_nyukan50.html)

##### 1 法律上の要件

(3) その者の永住が日本国の利益に合すると認められること

ア 原則として引き続き10年以上本邦に在留していること。ただし、この期間のうち、

就労資格 (在留資格「技能実習」及び「特定技能1号」を除く。)

又は居住資格をもって引き続き5年以上在留していることを要する。

一方、韓国人日本語学習者数は、

(1) 韓国で減少

国際交流基金 「海外日本語教育機関調査」 から

		2015年度	2018年度	2021年度
初等教育	正規科目	1,118	130	0
	課外活動	42	350	156
	合計	1,160	480	156
中等教育	正規科目	443,606	401,968	346,950
	課外活動	8,287	9,287	188
	合計	451,893	411,255	347,138
高等教育	日本語専攻	23,801	28,160	20,163
	日本語専攻以外	27,368	11,454	35,490
	課外活動	794	160	55
	合計	51,963	39,774	55,708
学校教育以外		51,221	80,002	67,332
合計		556,237	531,511	470,334

(2) 日本で \* 「留学」 減少

法務省 「在留外国人統計」 から

	留 学
2010.12.	27,066
2011.12.	21,678
2012.12.	18,643
2013.12.	17,189
2014.12.	15,765
2015.12.	15,405
2016.12.	15,438
2017.12.	15,912
2018.12.	17,056
2019.12.	17,732
2020.12.	12,854
2021.12.	8,616
2022.12.	14,124

韓国人日本語学習者は減る一方で、就労者は増えている。

韓国人就労者は、どこで、どのように日本語学習をしている？



## 【予備調査】 その1

対象：自分の日本語学習経験をYoutubeで紹介している韓国人就労者。  
Youtube Liveで日本語学習、日本での生活に関して話をする中、  
「集中して勉強する期間が大事ですね。」と言う。

目的：彼女の言う「集中」とはどのような経験なのかが聞きたい！

日本語学習経験をフローという見方から見ることができるだろうか。

方法：初期フロー研究のインタビュー方法に倣い、

- (1) フローモデルの図を提示し、説明。
- (2) ご自分の考える学習段階に沿って、自由に話してもらう。
- (3) 各段階において、フロー感覚を測定してもらう。

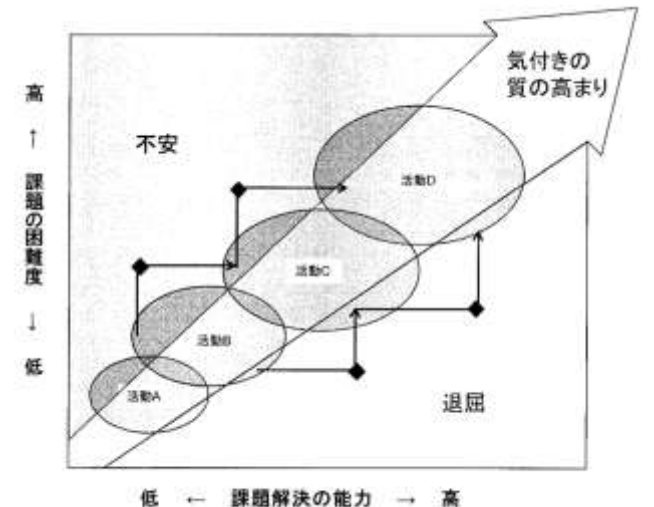


図1 フロー理論を基にした生活科の学習過程モデル

## 【予備調査】 その2

最初の1年間、会話の本とインターネットでバラエティ番組をみた。文法をマスターした。

毎回話題が変わる。遊びだった。字幕無しで見たい思った。

2年ほど、日本人とメール交換を続け、日常会話ができるようになった。

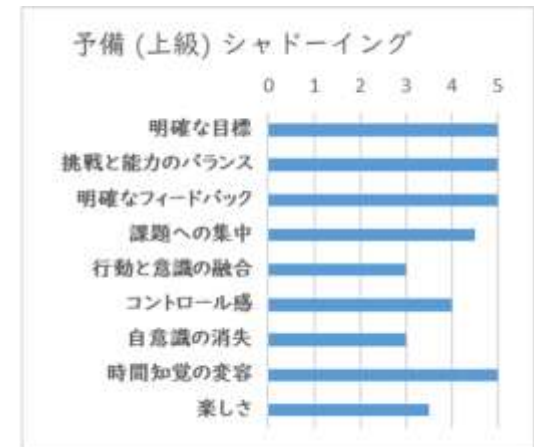
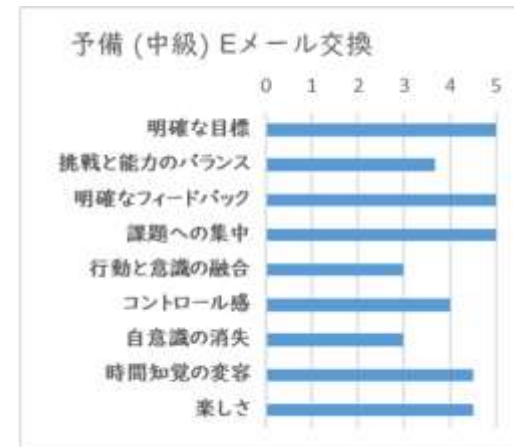
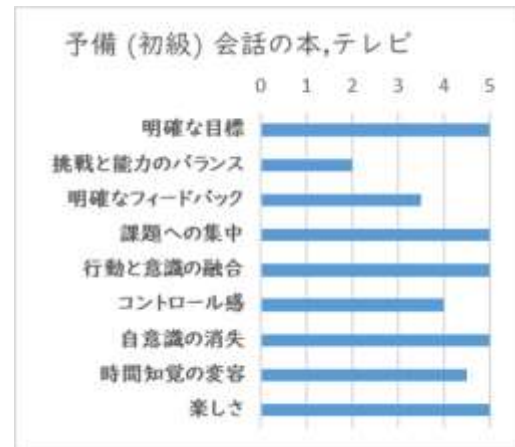
この文章で合っているかどうか、不安だった。相手の文章をコピーして真似した。

大学に入学してから、ニュースでシャドーイングをした。大学3年の頃、交換留学した。

ネイティブのような日本語がしゃべりたい。体力的にきつかった。喉が痛かった。

### フロー感覚の測定

川端雅人, 張本文昭 (2000)  
「Flow State Scale (日本語版) の検討: その1」



## 【研究方法としての現象学】

### 現象学とグラウンデッド・セオリーの比較

	現象学	グラウンデッド・セオリー
インタビューの方略	研究参加者が経験を述べ、インタビュアーは詳細や明瞭さを探る	
由来	欧州哲学	社会学
原理	共通の特徴をもった本質的で認識された現実が存在する	データに根付いた概念を吟味することによって理論が発見される
目的	ある現象の生きられた経験の意味を記述する	基本的社会過程を説明する理論を開発する
研究の問い	ある現象の生きられた経験は何か	基本的社会過程はある環境の文脈の中でどのように起こったか
分析	経験の本質、核となる共通の性質や構造を記述する	コアカテゴリーに統合される概念を説明できる枠組みを開発する
成果物	生きられた経験の本質と構造に関する記述	研究参加者の経験の範囲から生まれた理論

松葉祥一, 西村ユミ (2014) 『現象学的看護研究 理論と分析の実際』医学書院, p.48から編集

## 【研究協力依頼書】 抜粋

Seidman, I. (2019/2022) 「第2章 現象学的デプスインタビューの構造」 p.39-68

対象者は日本に3年以上居住し、業務上で日本語を使っている方です。

インタビューは計3回で、韓国語で行い、毎回約90分の所要時間を予想します。

毎回の事前に自己記入式質問があり、Zoomを使って研究結果の分析のために録音します。

各インタビューのテーマは下記とおりです。

1回目 今までの日本語学習経験

2回目 現在の日本語学習

3回目 私にとっての日本語とは。日本語学習とは。

各インタビューは3日から1週間の期間を置き、約束した日付・時間に行います。

## 【研究協力者】

研究協力者	Aさん	Bさん	Cさん
年齢・性別	32歳 女性	42歳 女性	30歳 女性
学歴	学士(文系、韓国) 専門課程(IT関連、日本)	学士(経営学、韓国) 修士(情報経営、米国)	学士(日本地域学、韓国)
来日時期	2016年7月	2006年11月	2015年4月
同居家族	独身	夫(日本人:2007年結婚) 息子2人(小学校3年生、3歳)	夫(日本人:2020年結婚)
来日時の日本語レベル	自由に話せる	平仮名が読める	ネイティブに近い
来日のバックグラウンド	韓国で文系の大学を卒業するも進路に悩み、好きな日本語を使って「IT就職」しよう。	恋人が日本で就職することになり、本人も来日を決断。 米国系IT企業「入社後日本語学習」	中・高時代に独学、高2の時にN1。 ネイティブのような日本語。 好きな日本語をたくさん使いたい。
日本就労期間	2020年4月～現在(1年9ヶ月)	2006年11月～2017年11月 (休職後2020年退社)(11年)	2015年4月～2020年(転職) 2020年～現在(6年10ヶ月)
担当業務	運用保守エンジニア	ITコンサルティング	ウェブサービス企画
業務上の日本語使用	顧客対応、マニュアル作成、会議、プレゼンテーション	プレゼンテーション、会議、日英翻訳・通訳	前職) 営業、事務、アナウンサー 現職) コンテンツ制作、企画

## どのように記述したか。

### 大学院の紀要論文集に投稿

朴ウギョン (2023) 「韓国人ニューカマーの日本語学習経験：フロー理論の観点から」  
地球社会統合科学 九州大学大学院地球社会統合科学府, 29(2), 21-38.

### 日本語学習経験の語りの中から見えたフローの4つの特徴をまとめて提示

「挑戦と能力のバランス」、「課題への集中」、「楽しさ」、「コントロール感」

Egbert, J. (2003) A study of flow theory in the foreign language classroom.

Mirlohi, M., Egbert, J., & Ghonsooly, B. (2011). Flow in translation.

Aubrey, S. (2016). Inter-cultural contact and flow in a task-based Japanese EFL classroom.

## 「挑戦と能力のバランス」

“日本語が話せなかった時ですが、会社が支援してくれて、サップというシステム資格を取りました。「あなたは日本語ができないけれど、頑張る意志があれば教育に行かせる」と言われて、…授業は主に会計用語を使うので、韓国語でメモを取りながら、先生に質問はできませんでしたが、聞き取りはできました。” (Bさん)

“長男が1歳になってから保育園に通いましたが、毎日ノートを書かなければならなかったことは私にとって本当にチャレンジでした。…わざと毎日の出来事を長くして、書字の練習や漢字の練習も兼ねて、…子供が1歳の時と5歳の時の私の字は全く違います。” (Bさん)

“前の会社は放送チャンネルを持っていて、ニュースを読んだり、レポートをしたりするアナウンサー職がありました。私が興味を見せると研修を受けさせてくださって、…日本語で日本人アナウンサーと同等にやってみたい、チャレンジしてみたいと思いました。” (Cさん)

## 「課題への集中」

“日本語がある程度できるようになるまでは、朝お家を出る瞬間から夜戻る時まで、私にはアンテナが立っていました。そのアンテナで、聞いて見て話して書いて、全部できるようにですね。アンテナが立っている感じ、緊張感が常にありました。なぜなら、私は英語で話している時を除けば、いつも習っている瞬間でしたから。” (Bさん)

“職務が変わったり、職場が変わったりすると、慣れていないので必要な日本語が検索をしても出てこないんです。そのような時は先輩たちの話していることに耳を立てて、メモして、机に貼っておいて覚えました。” (Cさん)

“知らない単語が減ったので、最近はテレビや生活の中で知らない単語が出てきたら、その単語だけがとても大きく聞こえるような気がします。” (Cさん)



## 「楽しさ」

“日本語能力試験の準備は本当に大変でした。でも、自分がやりたくてやったので、良い経験だったと思います。” (Aさん)

“会議の内容を全て理解することはできなかつたし、ストレスを感じた時もあったと思います。しかし、全体的にはとても楽しんでいました。私は日本に来て間もないし、心を尽くして早く学ばなければならないと知っていたし、新しい場所で新しいチャレンジをするのが好きですし、そして私はいつも早く学ぶ人だと、なんとなくいつもそのように思っています。” (Bさん)

“私は成長という言葉が好きです。新しいことを学ぶのが好きで、「今日も一つ新しいことを習った」という達成感があって楽しいです。” (Cさん)

## 「コントロール感」

“ 仕事中使う日本語は、毎日使う文章でも、状況によって変える、温度感と言うか、連絡の間を考えたり、クレームを気にしたりするので難しいです。敬語の使用は今も難しいです。” (Aさん)

“ もう日本語が外国語だという認識がありません。韓国語でも私の知らない語彙があるように、ただ私の語彙力の問題だと思うだけで、外国語だから知らないとは思いません。” (Cさん)

私は「チェリーピッキングをしている」？



Image from <https://magazine.hankyung.com/business/article/201908131239b>



## チェリー・ピッキング - Wikipedia

<https://ja.wikipedia.org/wiki/チェリー・ピッキング>

チェリー・ピッキング (英語: cherry picking) とは、数多くの事例の中から自らの論証に有利な証拠のみを選び、それと矛盾する証拠を隠したり無視する行為のことである。チェリーピッキングは質の悪い科学または疑似科学の特徴であり、多くの証拠が自分たちに不利であるにもかかわらず、立場を支持するように ... [더 보기](#)

# フロー経験に注目することはどのような意味があるか。

1. 近年、日本語教育分野において、学習経験に関する研究としてライフストーリー研究が多い。  
しかし、「人々の声を聴くこと」が第一の目的で「社会的現実」を提示することに力点があったため、日本語教育学のための研究になりえていないという自省（川上2015, p.41）。
1. 外国語学習における個人差研究の多くは不安に注目してきたが、
2. 発達のプロセス➡ 研究協力者の文脈を理解
2. 現象学的生起➡ 生きられた経験（Lived Experience）時間・空間・身体・関係性
2. 読み手に共感できる経験 「1級を取ってもモヤモヤ感」「配属前の緊張感と言葉の準備」  
「全体的に楽しい経験」

## 参考文献

浅川希洋志, 静岡大学教育学部附属浜松中学校 (2011) 『フロー理論にもとづく「学びひたる」授業の創造: 充実感をともなう楽しさと最適発達への挑戦』学文社

石村郁夫, 河合英紀, 國枝和雄, 山田敬嗣, 小玉正博 (2008) 「フロー体験に関する研究の動向と今後の可能性」 『筑波大学心理学研究』 36, 85-96.

岡崎眸, 堀和佳子 (2000) 「言語学習についての確信-韓国人日本語学習者の場合」 『お茶の水女子大学人文科学紀要』 53, pp. 185-201.

鹿毛雅治 (1994) 「内発的動機づけ研究の展望」 『教育心理学研究』 42(3), pp. 345-359.

川上郁雄 (2015) 「あなたはライフストーリーで何を語るのか」 『日本語教育学としてのライフストーリー 語りを聞き, 書くということ』 くろしお出版.

川端雅人, 張本文昭 (2000) 「Flow State Scale (日本語版) の検討: その 1」 日本体育学会大会号 第 51 回, p. 183.

酒井隆光, 小川哲男 (2011) 「子どもの自然認識の構造と構成に関する研究 III: 生活科の気付きの質を高める教授・学習論の検討 (理科教育論・理科教育史, 一般研究発表 (口頭発表))」 『日本理科教育学会全国大会要項』 p. 345.

朴ウギョン (2023) 「韓国人ニューカマーの日本語学習経験: フロー理論の観点から」 『地球社会統合科学』 29(2), pp. 21-38.

朴世稀 (2006) 「ある韓国人日本語学習者の個別性要因について」 『日本語・日本文化研究』 16, pp. 93-102.

チクセントミハイ, M. 今村弘明 (訳) (1996). 『フロー体験 喜びの現象学』, 世界思想社, p. vii (Csikszentmihalyi, M. (1990). FLOW: The psychology of optimal experience.)

福田倫子, 小林明子, 奥野由紀子, 阿部新, 岩崎典子, 向山陽子 (2022) 『第二言語学習の心理: 個人差研究からのアプローチ』 くろしお出版

真嶋潤子 (2005) 「学習者の個人差と第二言語習得-「学習スタイル」を中心に-」 『第二言語としての日本語の習得研究』 (8), pp. 115-134.

Aubrey, S. (2016). Inter-cultural contact and flow in a task-based Japanese EFL classroom. *Language teaching research*, 21(6), 717-734.

Csikszentmihalyi, M. (1990) *Flow: The psychology of optimal experience* 『몰입: 미치도록 행복한 나를 만난다』 최인수訳 (2004), 한울림, 韓国.

Csikszentmihalyi, M. & Csikszentmihalyi, I. (1988) *Optimal experience: Psychological studies of flow in consciousness*. Cambridge University Press

Csikszentmihalyi, M., Latter, P., & Weinkauff Duranso, C. (2017) Nine Components of Flow. *Running flow*, 17-38.

Egbert, J. (2003). A Study of Flow Theory in the Foreign Language Classroom. *The Modern Language Journal*, 87(4), 499-518.

Keller, J. M. (2009) 『学習意欲をデザインする-ARCS モデルによるインストラクショナルデザイン』 鈴木克明監訳. (2010)., 北大路書房

Mirlohi, M., Egbert, J., & Ghonsooly, B. (2011). Flow in translation: Exploring optimal experience for translation trainees. *Target. International Journal of Translation Studies*, 23(2), 251-271.

Nakamura, J., & Csikszentmihalyi, M. (2002) The concept of flow. *Handbook of positive psychology*, pp. 89-105.

Seidman, I. (2019) *Interviewing as Qualitative Research: A Guide for Researchers in Education and the Social Sciences, Fifth Edition* 『질적 연구 방법으로서의 면담』 박혜준, 이승연共訳 (2022), 학지사, 韓国.